

VI 水稻酒造好適米「縁の舞」の特性と栽培上のポイント

1 来歴

2004年に島根県農業試験場(現 島根県農業技術センター)において、「山田錦」を母、「01-66」を父として人工交配により育成した。

2 特性

- 1) 出穂期は「改良雄町」より4日程度、「山田錦」より7日程度早く、成熟期は「改良雄町」より2日程度、「山田錦」より9日程度早い早生種である。平坦地域(標高50m以下)では出穂がさらに早まる傾向がある。
- 2) 草型は穂重型である。
- 3) 稈長は「改良雄町」と同程度で、「山田錦」より6cm程度短く、穂長は「改良雄町」よりやや長く、「山田錦」より長く、穂数は「改良雄町」及び「山田錦」より少ない。
- 4) 脱粒性は「改良雄町」と同程度の難であり、「山田錦」より優る。
- 5) 耐倒伏性は「改良雄町」と同程度のやや弱で、「山田錦」に優る。
- 6) 葉いもち及び穂いもちには弱いので要注意。
- 7) 穂発芽性はやや難で、「改良雄町」及び「山田錦」に優る。
- 8) 玄米重は「山田錦」より15%程度多く多収である。
- 9) 玄米千粒重は「改良雄町」より2g程度、「山田錦」より1.5g程度重く、大粒である。
- 10) 検査等級は「山田錦」よりやや優れる。
- 11) 心白発現率は「改良雄町」より低く「山田錦」より高く、心白の形状は線状である。心白率(心白の大きさ)は「改良雄町」より小さく、「山田錦」に近い。

3 適地及び栽培上の注意

(1) 栽培適地

中山間地～山間地(標高450m以下)の早植(5月中旬～下旬移植)に適する。

(2) 栽培上の注意

いもち病に弱いため、多肥栽培は避け適切な防除を行うこと。

倒伏の恐れがあるため、多肥栽培は避け適切な水管理を行うこと。

4 栽培管理のポイント

(1) 土づくり

- ・堆肥等有機物や土づくり資材の施用、深耕、稲わらの腐熟促進対策を励行する。
- ・ケイ酸質肥料の施用により、胴割粒の発生を抑制できる。
- ・ケイ酸質資材(土づくり肥料、ケイ酸質肥料)を必ず施用する。

(2) 育苗・・・'縁の舞'の浸種積算水温は100℃

- ・ 1箱当たりの播種量は120グラム
- ・ 浸種水温は13℃以上、十分な催芽の確認がポイント
- ・ '縁の舞'の苗は他の品種より太く、根のマット形成も良好である。

(3) 移植時期 栽植密度

- ・ 移植時期は早すぎると過剰生育や有効茎歩合の低下を招くので5月中旬以降とする。
- ・ 株間は18cm～21cmが適当

(4) 基肥・・・初めての栽培は必ず体系施肥で！

- ・ 10a当たりの基肥施肥窒素量は2.0～3.0kg程度。
- ・ 堆肥施用田や稲わら連用田で毎年、「おおでき」する場合、基肥減肥の検討を！

(5) 水管理

- ・ 根が元気でいられるような水管理→土壌表層の「うわ根」は完熟期まで伸長している。
- ・ 大きな地割れができるほどの中干しは稲の根を弱くしてしまう。
- ・ 常時湛水より間断灌水のほうが、根の元気度が高く、収量・品質ともに優る。

(6) 穂肥

- ・ 穂肥をやれる稲に育てることが、粒張りや登熟歩合を高め、醸造適性の高い酒米生産につながる。
- ・ 1回目 出穂20～18日前（幼穂長2～8ミリ） 窒素成分量 10a当たり1.5kg以内
- ・ 2回目 出穂10日前 窒素成分量 10a当たり1.0kg以内
- ・ 幼穂形成期の葉色（SPAD値35前後、カラスケール4前後）。

(7) 防除

- ・ いもち病には弱いので、防除を徹底する！ 育苗箱施薬＋本田防除必須
- ・ 紋枯病は茎葉の枯死や根の活力低下を招き、登熟歩合が低下し千粒重も小さくなるので、育苗箱施薬や本田防除を徹底する。

(8) 適期収穫・乾燥調製

- ・ 酒米は大粒のため、刈り遅れると胴割れしやすいので、青味籾率10～15%での刈り取りに努める。
- ・ 急激な乾燥により胴割れしやすいので注意する。乾燥は仕上がり水分15%とする。